

## 令和3年度 第1回 小平市男女共同参画推進審議会 会議要録

日時：令和3年5月13日（木）午後2時～3時

場所：庁議室

### 1 出席者

小平市男女共同参画推進審議会委員（第6期）10人

### 2 傍聴者

1人

### 3 会議資料

資料1 令和3年度男女共同参画推進事業年間予定表

資料2 分野別市民意識・事業所実態調査結果

資料3 小平アクティブプラン21（第四次小平市男女共同参画推進計画）体系図案

資料3-2 小平アクティブプラン21（第四次小平市男女共同参画推進計画）  
体系図案 抜粋

資料4 小平アクティブプラン21（第四次小平市男女共同参画推進計画）  
体系図見直しポイント

参考資料1 小平市男女共同参画推進審議会委員名簿（第6期）

### 4 議題

- （1）令和3年度男女共同参画推進事業年間予定
- （2）男女共同参画に関する市民意識・事業所実態調査結果の概要
- （3）第四次小平市男女共同参画推進計画体系図案について

## 5 会議記録（要約）

### 議題（1）令和3年度男女共同参画推進事業年間予定

⇒資料1 令和3年度男女共同参画推進事業年間予定表

会 長 : 議題（1）令和3年度男女共同参画推進事業年間予定について事務局より説明を。

事務局 : 資料1を使い、予定を説明する。

- ・推進状況調査の結果は推進委員会、推進本部で報告する。その後、審議委員に報告し、確定したものを10月の決算特別委員会までに報告書とする。
- ・審議会、推進委員会、推進本部の議題は第四次小平市男女共同参画推進計画策定で、それぞれ年5回開催。
- ・審議会は学識経験者、事業者、市民10人で構成され2年任期。
- ・推進本部の下の推進事業として、広報紙「ひらく」の年2回発行、講演会の企画運営を市民と協働で実施、男女共同参画担当主催のデートDV防止講座、女性の就労支援講座、市内事業者懇談会等を予定。
- ・計画策定のための地域懇談会を11月と12月に予定。市民活動団体と共催で男女共同参画意識を高めてもらうための講座を3回予定。（男女共同参画の総論、ワーク・ライフ・バランス、DVやハラスメント）

会 長 : 審議会が令和3年にやる事として、①第3次計画に基づく単年度評価  
②4年分の総括としての評価、③第4次計画へ審議会として意見を述べる事、がある。

### 議題（2）男女共同参画に関する市民意識・事業所実態調査結果の概要

⇒資料2 分野別市民意識・事業所実態調査結果

会 長 : 議題（2）市民意識・事業所実態調査結果について事務局より説明を。

事務局 : 資料2を使い、結果を説明する。

- ・令和2年9月に実施した結果や全国調査との比較を、計画に反映予定の項目について説明。詳細は報告書参照。

#### ■ワーク・ライフ・バランス

##### 【家事・育児・介護】

- ・平等分担は理想が6割だが、現状は1割程度。

##### 【地域活動・防災】

- ・地域活動参加率は前回よりも減少、若い世代ほど低い。
- ・東京都調査結果よりは高い。

### 【仕事】

- ・ 1 か月間仕事をしていない割合は前回よりも高い。特に女性は 35～44 歳で約半数。
- ・ 待遇面で性別による違いを感じるのは女性で低い。男性では前回よりも高い。
- ・ 女性の望ましい働き方は「子育て期は一時やめ、その後仕事を続ける」が特に女性 18～29 歳で高い。一方、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」は 40 歳代と 60 歳以上で高い。
- ・ 子育て後の仕事は「パートタイムで仕事を続ける」が高い。

### 【ワーク・ライフ・バランスの理想と現状】

- ・ 理想として「仕事、家庭生活、個人の生活のすべて優先」が 3 割程度で、女性でやや高い。
- ・ 現状でバランスが取れているのは 1 割未満。女性は「家庭生活」、男性は「仕事」を優先させている。

### ■安全・安心な暮らし

#### 【暴力の認識】

- ・ 暴力の認識は前回調査よりも全般的に高く、全国調査、東京都調査より「何を言っても長時間無視し続ける」のみが低い。

#### 【性的マイノリティ】

- ・ 性的マイノリティの認知度（言葉+内容）は 7 割。男性の方が高く、年齢別では 18～29 歳で 8 割超。

### ■男女共同参画の推進

#### 【男女共同参画意識】

- ・ 固定的な性別役割分担意識は前回よりも低く「夫は仕事、妻は家庭を守るべきである」に反対の割合は女性 7 割、男性 6 割。
- ・ 分野別平等感は、学校教育 6 割超、法律や制度 3 割弱、政治分野 1 割弱。
- ・ 職場では全国、東京都よりも平等感が低い。

会 長 : 実態調査からキーとなるものを抜粋していただいた。他の部分も含めて計画策定の参考にしていただければ。実態調査に関して質問は？

委 員 : 【仕事】で女性 35～44 歳が仕事をしていない割合について、報告書の該当ページはどこか。【ワーク・ライフ・バランスの理想と現状】で「バランスが取れているが 8 %」はどこになるのか。

事務局 : 年代別の就労割合は報告書の 52 ページに掲載しているが、性別・年齢別の結果は事務局で分析しているため、報告書には載っていない。

委 員 : 事務局が保有するデータには女性 35～44 歳の詳細があるということか。

事務局 : 後ほどグラフで女性の就労状況を提供させていただく。ワーク・ライフ・

バランスが取れているのが1割に満たない件は68ページに掲載。  
「仕事、家庭生活、個人の生活のすべて優先」が7.8%とある。

### 議題（3）第四次小平市男女共同参画推進計画体系図案について

⇒資料3 小平アクティブプラン 21 体系図案

資料3-2 小平アクティブプラン 21 体系図案 抜粋

資料4 小平アクティブプラン 21 体系図見直しポイント

会 長 : 議題（3）第四次小平市男女共同参画推進計画体系図案について事務局より説明を。

事務局 : 資料3、3-2を中心に体系を説明する。

- ・資料3の第三次と第四次計画の関係を分かりやすく抜粋したものが資料3-2になる。(以下、資料3-2の説明)

#### 【基本目標】

- ・第三次では基本目標Ⅰ、Ⅱとあるが、第四次では切り離せないものと考えて一体化させる。
- ・第四次の基本目標Ⅱでは、1-③「多様な性への理解促進と尊重」の追加以外に変更はない。
- ・第三次の基本目標Ⅱ-3「あらゆる場での男女共同参画意識の醸成」を第四次の基本目標Ⅲ1に移し、広く意識改革を図っていく。

#### 【施策と施策の方向性】

- ・I-1-①では就労支援を充実させる。理由1) 女性は35～44歳で辞める割合が約半数、その後就職するのが8割近い。2) 望ましい働き方として、子育て期に一旦辞める割合が就労継続よりも高い。  
子育て期には子どもを通じた地域活動を、働きたい時にスムーズに就労できる再就職支援を重点項目とする。
- ・I-1-②は第三次では「男性の家庭参加」だったが、性別にとらわれない文言とする。家庭に係ることは単に「参加」ではなく、より主体的、能動的な家庭参画として推進を重視する。数値目標は男性の育児休暇取得率を用いる。
- ・【数値目標】について：黒枠の12項目は第三次のもので、第四次では市の行政評価や他計画のものを計13項目（点線枠）追加する。
- ・I-1-③は第三次で「男性の地域活動参加」だったが、男性に限らず全ての人に意識を持ってもらう。意識調査では地域活動参加率が低下。コロナ禍の影響もあるが、人生を豊かにするための活動という認識を高めるためにも重点項目として検討。参加率は東京都よりは高く、コミュニティに参加しやすい環境であることを周知し、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。

数値目標は、地域活動の参加率に自治会長の女性比率を追加。指導的立場に女性が就くことで防災・防災分野にも女性の視点が入り、活躍の場も広がる。

- ・ I-2-①には第三次の事業所向け施策を集約する。数値目標は、結婚・出産・育児による退職経験がない割合に、育児休業取得率と介護休業取得率、年次有給休暇取得日数と時間外労働時間、問題になったハラスメントがない事業所割合を追加。
- ・ I-2-NEW②は、毎年ホームページで公表している。
- ・ I-3-①の数値目標は、第三次よりも職層を細分化し、内閣府の目標に合わせる。
- ・ II-1-②の数値目標は、60～69歳の就業率とし、内閣府の目標に合わせる。
- ・ II-1-NEW③は、社会の認識も変化しており、生き辛さを感じることなく配慮が行き届く環境の推進をしていく。
- ・ II-2は第三次で「女性の生涯にわたる・・・」だったが、全ての人に当てはまるようにする。
- ・ II-2-①の数値目標は健康寿命とする。
- ・ II-3-①は、調査結果で「何を言っても長時間無視し続ける」が暴力に当たると思う割合が全国や東京都よりも低いいため、数値目標とする。
- ・ II-3-③では「周知」という文言を追加。
- ・ III-1は第三次I-1-①のワーク・ライフ・バランスを含む。
- ・ III-1-②の数値目標は、男女平等に関する授業実施率。
- ・ III-1-NEW③は、あらゆる分野の根底にあるこの意識の改善が第一と考え、重点項目とする。第三次IV-1-②やSDGsのジェンダー平等啓発も盛り込み、国際的にとらえる。数値目標には意識調査の「男女共同参画社会が実現されていると思う割合」を追加。
- ・ III-2-①では条例に基づく推進計画、進行管理を頭出し、実効性のある計画を目指す。計画策定は現状把握のためにジェンダー統計を活用。数値目標に「男女共同参画に関する啓発等の企画数」を追加。
- ・ III-2-②の数値目標は平成30年度に達成したが、第四次でも採用。

以上が施策の見直しについての説明となる。

会 長 : 質問や全般的な意見があれば。

委 員 : 学校における男女共同参画の推進で、数値目標は男女平等に関する授業を実施した小中学校の割合となっているが、それまでの実績や実施計画の有無は対象となるのか。

事務局 : 男女共同参画担当では中学生向けにデートDV啓発講座を実施しており、これを拡大する。男女共同参画に関する授業も市から働きかけたい。

- 委員 : 中学校では実施しているが、小学校ではまだ取り組めていないということか。
- 事務局 : おっしゃるとおり。
- 委員 : 性別や人権に関して、1、2年生は無理としても5、6年生には行って欲しいという希望が含まれているのか。
- 事務局 : 市から出向いて講座としてやっていきたいが、学校側との兼ね合いもある。調整して4、5年後に向けて実施したい。
- 会長 : 他に質問は。
- 委員 : 意見になるが、I-1-①の再就職支援では職場が近隣にあることが特に大切。市内の企業、公共機関、大学をはじめとした学校等での短時間勤務などでの仕事を用意するための支援があればよい。  
例えば、資金的支援、啓発活動、提案活動など。
- 事務局 : 働きやすい企業側の環境整備が必要。市としてできる事は少ないが、資金面の補助、企業向け啓発等がある。これから就職しようとする人に、講座という形で投げかけ、ニーズに応えられるようにしたい意味から、重点項目と考える。
- 会長 : プラスαの事業者側支援ということで検討いただいた。30～44歳が子育てで一旦辞めて復帰する働き方が現状では理想のようだが、離職せずに済むのがその上に行く理想ではないか。非正規で固定されるのが問題。市職員の正規、非正規の男女バランスを確認することから始めてはどうか。市内全域の事業者でも構わないが。
- 事務局 : 女性が非正規雇用に偏っている。社会全体で男性の働き方を見直し、家庭の時間を作り充実させないと、女性が一旦辞めなければならない。小平市は仕事を辞めた人の定住先として選ばれている。仕事を継続するためには若いうちから働き方をイメージできるよう啓発しないといけない。
- 会長 : 数値目標があると何とかしなければとなるので、市には数値を出していただきたい。職場で差別を感じない女性の割合が高いのは良いことなのか。固定化されて当たり前と思われているのかが気になった。
- 委員 : II-1-②高齢者、障がい者、外国人のところで、障がい児の母親が働ける機会が少ないため、起業した例を知っている。障がい者だけでなく周囲の関係者の働きやすさ、住みやすさの充実も計画の中に入れて欲しい。
- 事務局 : そういったグループの活動も確認して、意見として承る。
- 会長 : 公的支援を待っている待機児童の数値も入れるとよい。
- 事務局 : 関係部署と話をして、女性が働くための環境整備に相応しいものを検討したい。
- 委員 : 防災で消防団の担い手が減ってきた。女性も少ない。各団任せになっているので、市の担当課にもう少し動いていただきたい。ホームページも分かりに

くい。

事務局 : 消防に関しては、女性の参加は全国的に少ない。災害時に困り事があるのも女性に多く、避難所側に女性がいないと事態は良くなる。防災への女性参加を促したい。計画にも入れる予定。

会 長 : 他に意見や感想は。

委 員 : 自治会長をしているが、もう少し女性に対する助成が必要。小中学校で生理用品を配ったところがあるが、各自治体にあってもよい。小平市は遅れている。地震の時には用意していない人もいる。現物か補助金をいただけると良い。人生 100 年時代の健康づくりの補助に関して、健康寿命において小平市は効果が上がっている。他よりも良く取り組んでいる。

事務局 : 女性に対する市の支援も今後検討していく。

会 長 : 他に意見が無ければ議題 3 についても終了とする。次回日程について事務局から。

事務局 : 初めての Zoom による会で不便があったが、意見をいただいた。  
次回は 7 月 27 日 (火) 午後 2 時予定。詳細は通知する。

会 長 : 以上で令和 3 年度第 1 回小平市男女共同参画推進審議会を終了する。